

- 当別町では、平成18年度よりコミュニティバス「当別ふれあいバス」を運行。地元企業・大学・町・交通事業者が連携して運行を開始したもので、現在では年間約14万人が利用する「地域の足」となっている。
- 一方、人手不足や運行コストの増加、立地適正化計画や観光に関する施策による住民や来訪者の移動ニーズへの対応など、交通をとりまく状況の変化に対応するため、「当別町地域公共交通利便増進実施計画」に位置付けた取組を段階的に実施し、地域公共交通ネットワークの利便性向上・持続性確保を目指す。

事業の内容

①西当別エリアのバス路線再編

- JR太美駅を中心とした西当別エリアにおいて、バス路線を段階的に再編 (R6.4～) 新たな宅地造成に伴い増加する住民のニーズに対応 (R7.4～) 道の駅やロイズタウン工場等へのニーズに対応

②青山線のデマンド化 (R7.4～)

- 青山線（路線定時運行）の一部時間帯をデマンド化を実施

③キャッシュレス決済の導入 (R7.1～)

- 当別町ふれあいバス全路線にてQRコードによるキャッシュレス決済を導入

事業の効果

①西当別エリアのバス路線再編

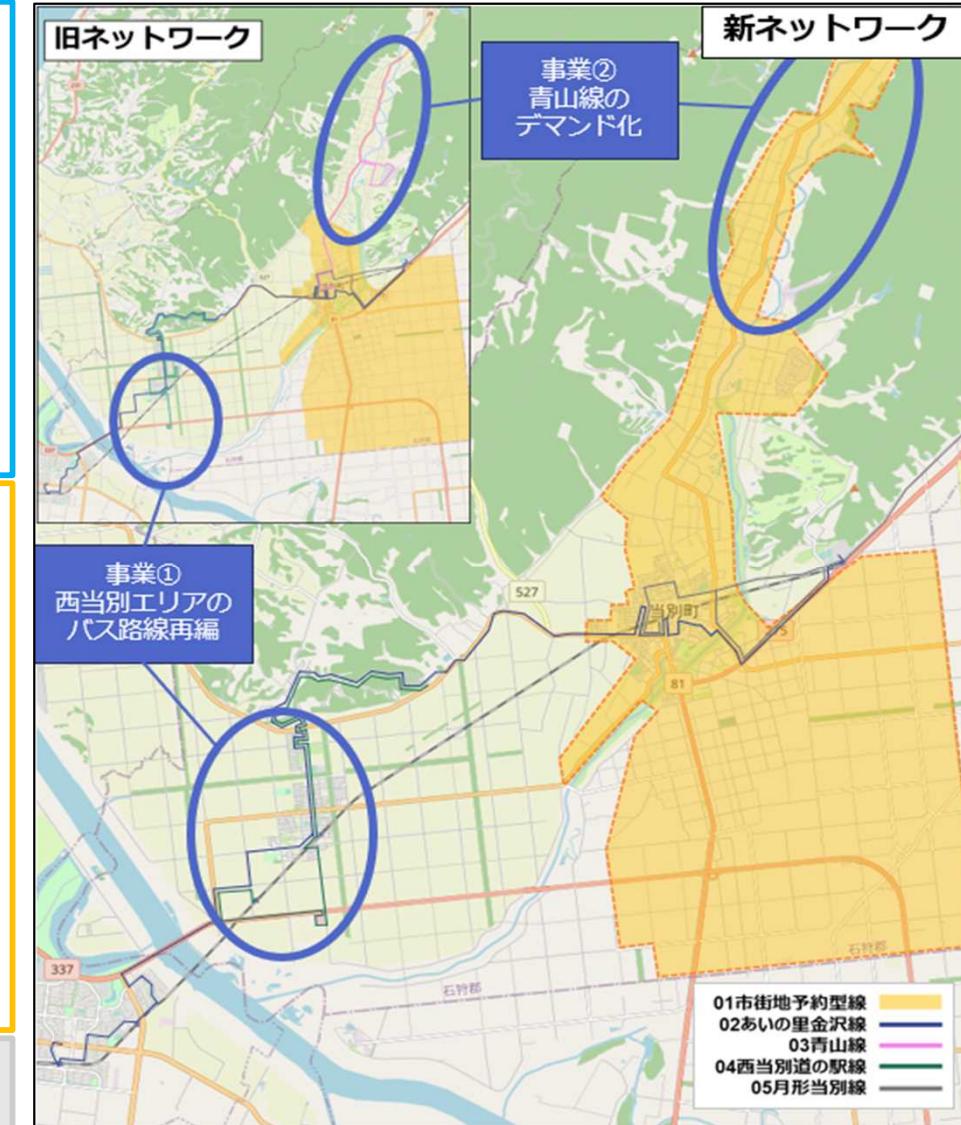
- 人口増加やJR新駅、観光施設などの新たなニーズに対する移動手段を提供
- 既存路線の一体的再編により、運行経費等のリソースの効率化と利便性向上の双方が期待される

②青山線のデマンド化

- 高齢化並びに人口減少が進む地域の特性に対応したサービスへの転換により、利便性が高く効率的なサービス提供の持続性が確保

③キャッシュレス決済の導入

- キャッシュレス決済の導入により運賃支払いが円滑化し、既存利用者の利便性向上と新規利用者の獲得に期待



- 当別町では、平成18年度よりコミュニティバス「当別ふれあいバス」を運行。地元企業・大学・町・交通事業者が連携して運行を開始したもので、現在では年間約14万人が利用する「地域の足」となっている。
- 一方、人手不足や運行コストの増加、立地適正化計画や観光に関する施策による住民や来訪者の移動ニーズへの対応など、交通をとりまく状況の変化に対応するため、「当別町地域公共交通計画利便増進計画」に位置付けた取組を段階的に実施し、地域公共交通ネットワークの利便性向上・持続性確保を目指す。

事業の内容

①西当別エリアのバス路線再編（R6.4～）

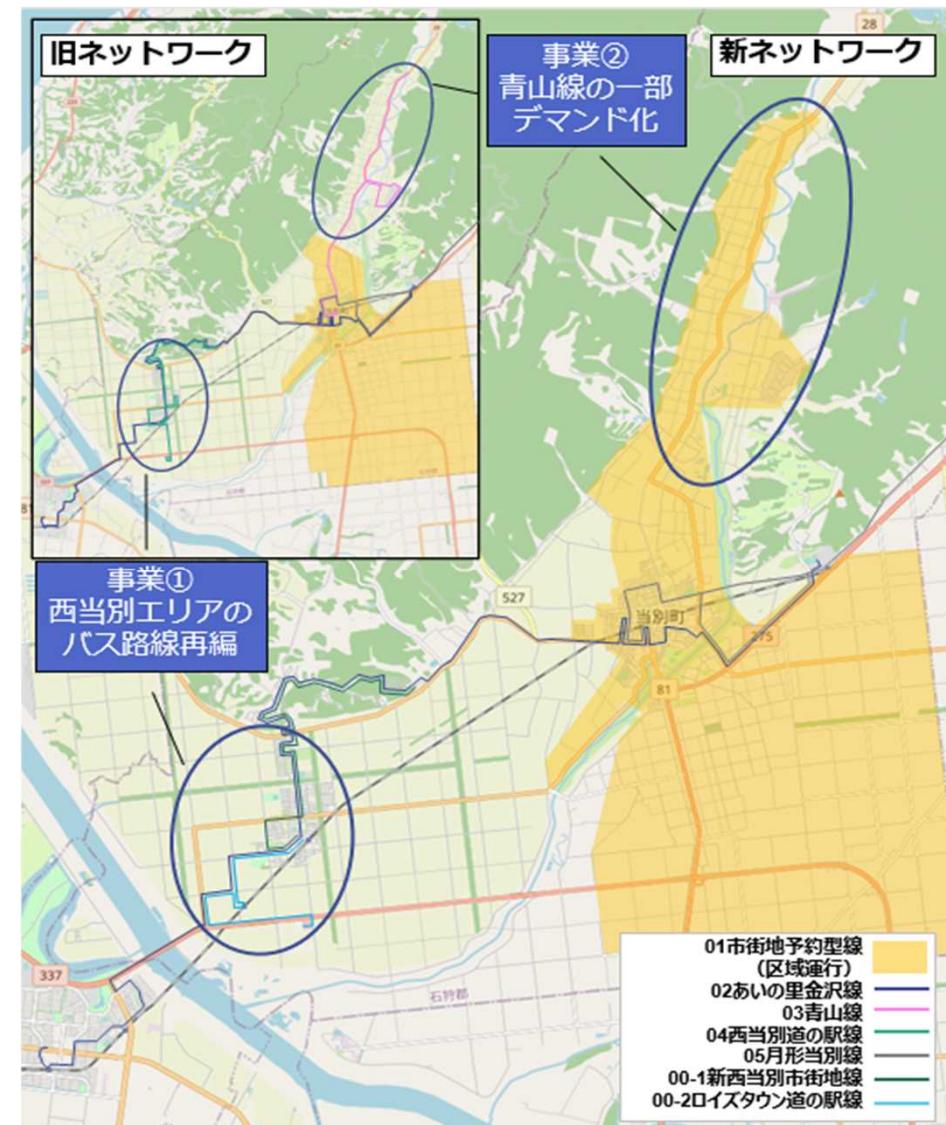
- JR太美駅を中心とした西当別エリアにおいてバス路線を再編し、新たな宅地造成に伴う住民増加や、道の駅やロイズタウン工場等へのニーズに対応する

②青山線の一部デマンド化（R6.12～）

- 青山線（路線定期運行）を一部デマンド化し、利便性向上を図る

③乗継情報の提供や、運賃支払いの円滑化（R7.4～）

- コミュニティバスの全系統に対し、グーグルマップと連携した情報発信、キャッシュレス決済の導入等を実施する



事業の効果

①西当別エリアのバス路線再編

- 既存路線の一体的再編により、運行経費等のリソースの効率化と利便性向上の双方が期待される

②青山線の一部デマンド化

- 高齢化並びに人口減少が進む地域の特性に対応したサービスへの転換により、利便性が高く効率的なサービス提供の持続性が確保

③乗継情報の提供や、運賃支払いの円滑化

- わかりやすくかつリアルタイムでの情報提供や運賃支払いの円滑化により、既存利用者の利便性向上と新規利用者の獲得に期待